

倉吉市内遺跡分布調査報告書 21

国府地区（国府跡関連遺跡（塔堂寺地区））

志津地区（塚ノ山古墳）

駄経寺町2丁目地区（大御堂廃寺跡（松ヶ坪地区））

西倉吉町地区（北の城跡）

桜地区（大日寺遺跡群） 他

令和2年度

倉吉市教育委員会

序

この報告書は、平成30年度後半から令和2年度に、倉吉市内における開発事業に伴って事前に実施した試掘・確認調査の記録です。

鳥取県の中央部に位置する倉吉市は、豊かな自然の風土の中で育まれた数多くの文化財が今日まで伝えられており、なかでも埋蔵文化財は県内でも有数な包蔵地として知られているところです。倉吉市教育委員会では、こうした埋蔵文化財を守り、開発事業との共存を図るため、各関係機関との協議を重ね、さらには地元の方々の御理解と御協力を得ながら、文化財保護行政を進めています。

今回実施した調査においても、遺跡の有無とその広がりや遺跡の性格を把握するという所期の目的を果たし、開発機関との調整を図りながら文化財の保存を講ずることができました。発掘調査の記録をここに報告し、埋蔵文化財行政の資料として、また調査研究の一資料としてご活用いただければ幸いに存じます。

最後に、調査にご協力いただきました市民の方々をはじめ、関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

令和3年3月

倉吉市教育委員会

教育長 小 椋 博 幸

例 言

- 1 本報告書は、平成30年度後半から令和2年度に倉吉市教育委員会が、国・県の補助を受けて実施した分布調査の記録である。分布調査は、トレンチ・グリッドによって遺跡の有無・範囲・性格を調査したものである。

- 2 調査体制は次のような組織・編成である。

調査主体 倉吉市教育委員会

事務局 倉吉市教育委員会事務局文化財課

小椋 博幸（教育長）

山中 敏幸（事務局長）

根鈴智津子（文化財課課長 元年度まで／専門員 2年度） 藤井 貴男（文化財課課長 2年度）

山口 迅矢（文化財課課長補佐兼文化財係係長 30年度）

岡本 智則（文化財係主幹 30年度／文化財係係長 元年度／文化財課課長補佐兼文化財係係長 2年度）

加藤 誠司（文化財係主任 元年度まで／文化財係主幹 2年度）

箕田 拓郎（文化財係主任）

山増諭美子（文化財係主任 元年度から）

田中 貴志（文化財係主任 2年11月から）

小田 芳弘（文化財係学芸員 30年度／文化財係主任学芸員 元年7月まで／文化財係兼博物館主任学芸員 元年8月から）

片岡 啓介（文化財係学芸員）

出口 亜美（文化財係主事）

田邊 歩（文化財係主事 元年度まで）

西浦 千賀（文化財係主事 2年度）

細井万希子（調査補助員 30年度）

進木 和美（調査補助員 元年9月から）

猪口亜也子（事務職員）

松原 雄二（技術職員）

内務整理 秋元葉子・足羽由里香・進木和美（30年度から元年8月まで）・田中草子（30年度）・田中朋子（30年度）・徳田郁美（元年度から）・中尾あゆみ（元年度）・谷口公也（2年度）・花池 亨（30年度）・山松紀文（2年度）

- 3 本書の執筆は、調査員が討議して、各担当調査員が行い、文末に文責を記した。

- 4 本書に掲載した地図は、平成元年及び8年修正測量の1:2,500国土基本図倉吉市平面図を使用し、方位は国土座標第Ⅴ座標系（日本測地系）で示した。

- 5 調査によって得られた資料は倉吉市教育委員会で保管している。

- 6 現地調査において以下の諸氏にご指導をいただいた。記して謝意を表します。（順不同・敬称略）

名越勉（倉吉文化財協会名誉会長）、眞田廣幸（倉吉市文化財保護審議会委員）、森下哲哉（元倉吉市教育委員会文化財課長）、山橋雅美（鳥取県地域づくり推進部文化財局長）、君嶋俊行（鳥取県地域づくり推進部文化財局・当時）、玉木秀幸、高尾浩司、高橋章司、水村直人（鳥取県地域づくり推進部文化財局）

目 次

1	石塚・福山地区（石塚廃寺東遺跡・大鴨遺跡）	2
2	国府地区（国府跡関連遺跡（塔堂寺地区））	6
3	福光地区（福光ヒビノ原遺跡）	10
4	志津地区（塚ノ山古墳）	12
5	駄経寺町2丁目地区（大御堂廃寺跡（松ヶ坪地区））	16
6	横田地区	20
7	井手畑地区	21
8	西倉吉町地区（北の城跡）	22
9	上神地区（上神宮ノ前遺跡）	26
10	福庭地区	28
11	不入岡A地区（不入岡遺跡群（荅本榎地区））	29
12	桜地区（大日寺遺跡群）	32
13	下福田・国府地区（下福田金鍔谷遺跡・下福田後口野遺跡）	42
14	不入岡B地区（不入岡遺跡）	46

1 石塚・福山地区（石塚廃寺東遺跡・大鴨遺跡）

調査地点 倉吉市石塚字山ノ下タ、字平ノ前、
字大鴨、福山字大鴨、字法大神、
鴨河内字流田

調査期間 平成 30 年 11 月 16 日
～平成 31 年 3 月 12 日

調査契機 国道 313 号（倉吉関金道路）改良
事業

調査面積 453m²

調査概要

調査地は北東に伸びる天神野丘陵の東裾から東に広がる平野地に位置し、石塚廃寺推定域内とその南側にあたる。現況は水田である。開発範囲にトレンチを 24 箇所設定して調査を行った。

大正時代の絵図や昭和 37 年までの航空写真に

は、開発範囲内に南西から北東へ流れる流路が見られる。この流路は昭和 39 年頃の圃場整備時に埋め立てられ、現在の地表面では確認できない。

調査の結果、トレンチ 22 以北で遺構を検出した。トレンチ 1 では近世と思われる水田に伴う畦畔と偶蹄類の足跡を確認した。約 30 m 南西にあるトレンチ 2 では近世の水田は確認できず、黒色粘質土上面で、中世以降と思われる水田を確認した。この黒色粘質土はトレンチ 1 で近世の水田を確認した層の下層にも存在する。また、トレンチ 2 では先述した昭和 39 年頃までの流路と、その下層でさらに古い流路を確認した。トレンチ 3・6 でも古い流路を確認し、そのうちトレンチ 6 では流路埋土から奈良興や石塚廃寺の瓦が多く出土

No	規模 (m)	面積 (㎡)	主な遺構	主な出土遺物
T 1	6 × 3	18	水田	土師器、須恵器、丹塗土師器、奈良甕、土師質土器、瓦質土器類・羽釜、白磁
T 2	6 × 3	18	水田、流路	土師器、須恵器、奈良甕、甕、土師質土器、瓦質土器類・羽釜、唐津皿、磁器人形
T 3	6 × 3	18	流路	須恵器、土師質土器、瓦質土器、青磁香炉、唐津皿、布目瓦、軒丸瓦 (Ⅰ型)、鉄滓
T 4	6 × 3	18	なし	土師器、土師質土器、布目瓦
T 5	6 × 3 4 × 1.5	24	なし	弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、土師質土器、布目瓦 (平口)
T 6	6 × 3	18	流路	弥生土器、土師器、須恵器高台付環 (内面漆)、丹塗土師器、奈良甕、土師質土器、肥前漆鉢、輪郭口、布目瓦、軒丸瓦 (Ⅱ型)、壁体、礎石
T 7	3 × 1.5	4.5	なし	土師器、須恵器、布目瓦
T 8	3 × 3.5	10.5	なし	須恵器、土師質土器、布目瓦
T 9	6 × 3	18	なし	須恵器、丹塗土師器、奈良甕、土師質土器、布目瓦、青磁香炉、磁器
T 10	6 × 3	18	竪立柱建物 1、ビット群	弥生土器、土師器、須恵器、丹塗土師器、奈良甕、土師質土器、布目瓦、砥石
T 11	10 × 2	20	なし	土師器、須恵器、丹塗土師器、奈良甕、土師質土器、布目瓦、唐津皿
T 12	10 × 3	30	ビット 1	弥生土器、土師器、須恵器、丹塗土師器、奈良甕、土師質土器、瓦質土器香炉、天目茶碗
T 13	10 × 2	20	なし	土師器、須恵器、青磁碗、備前漆鉢、布目瓦、天目茶碗
T 14	10 × 2	20	なし	須恵器、丹塗土師器、瓦質土器鉢、青磁碗
T 15	10 × 2	20	なし	土師器、丹塗土師器、瓦質土器類、白磁
T 16	10 × 2	20	なし	須恵器、土師質土器
T 17	10 × 2	20	なし	須恵器、丹塗土師器
T 18	10 × 2	20	なし	土師器、須恵器、奈良甕、瓦質土器、青磁碗、白磁碗、備前漆鉢、唐津焼
T 19	10 × 2	20	なし	須恵器蓋、土師質土器
T 20	6 × 3	18	ビット 2	弥生土器、土師器、須恵器、丹塗土師器、奈良甕、土師質土器、布目瓦
T 21	10 × 2	20	なし	瓦質土器香炉、肥前漆鉢
T 22	10 × 2	20	溝 1	弥生土器、土師器、奈良甕、土師質土器、白磁
T 23	10 × 2	20	なし	縄文土器、須恵器、丹塗土師器、土師質土器、瓦質土器、備前漆鉢
T 24	10 × 2	20	なし	土師器

している。トレンチ 10・12・20 では掘立柱建物やピットを検出した。そのうちトレンチ 10・20 の遺構は、出土遺物から中世と考えられる。トレンチ 20 のピットは埋土から古墳時代の土師器高坏の破片が出土した。トレンチ 22 では黒色土上面で溝を確認した。溝埋土からは古墳時代の土師器甕の破片が出土した。

その他のトレンチでは遺構を確認していないが、トレンチ 22 の遺構検出面である黒色土は、付近のトレンチ 13・14 にも厚く堆積しており、標高もトレンチ 22 とほぼ同じであることから、

トレンチ外に遺構が遺存する可能性がある。

遺物は開発範囲の全範囲で出土しているが、遺物量は北側のトレンチが比較的多い。北側では土師質土器環や皿のほか、平瓦の出土が多く、軒丸瓦もある。対して南側では瓦類はほとんどなく、白磁・青磁などの貿易陶磁器が比較的多く見られる。

以上のことから、トレンチ 1～14、20、22 の周辺では事前に発掘調査が必要である。

(片岡)



トレンチ 6

左：断面（東から）

上：奈良甕（1）出土状況
（東から）



トレンチ 10（南西から）

出土遺物（右ページの続き）

- 22 青磁 碗 (T 18)
- 23 青磁 香炉カ (T 9)
- 24 青磁 香炉 (T 3)
- 25 白磁 碗 (T 18)
- 26 白磁 碗 (T 15)
- 27 青磁 碗 (T 14)
- 28 青磁 碗 (T 18)
- 29 備前 播鉢 (T 13)
- 30 備前 播鉢 (T 18)
- 31 肥前 播鉢 (T 21)
- 32 軒丸瓦Ⅰ類 (T 3)
- 33 軒丸瓦Ⅱ類 (T 6)
- 34 竈 (T 2)
- 35 欄羽口 (T 6)
- 36 鉾澤 (T 3)
- 37 壁体 (T 6)
- 38 礎石 (T 10)



トレンチ 12
(北東から)



出土遺物

- | | | |
|---------------------|--------------------|---------------------------|
| 1 奈良甕 (T 6) | 8 丹塗土師器 坏 (T 9) | 15 須恵器 高台付坏 (内面漆付着) (T 6) |
| 2 奈良甕 (T 5) | 9 土師器 坏 糸切底 (T 22) | 16 瓦質土器 羽釜 (T 1) |
| 3 奈良甕 (T 9) | 10 須恵器 坏蓋 (T 9) | 17 瓦質土器 鍋 (T 15) |
| 4 丹塗土師器 坏 (T 9) | 11 須恵器 蓋 (T 5) | 18 瓦質土器 香炉 (T 21) |
| 5 土師器 皿 糸切底 (T 12) | 12 須恵器 坏身 (T 10) | 19 瓦質土器 香炉カ (T 12) |
| 6 土師器 皿 糸切底 (T 12) | 13 須恵器 高台付坏 (T 12) | 20 青磁 碗 (T 18) |
| 7 丹塗土師器 (暗文) (T 10) | 14 須恵器 壺 (T 20) | 21 青磁 碗 (T 13) |

2 国府地区（国府跡関連遺跡（塔堂寺地区））

調査地点 倉吉市国府字塔堂寺 670-2、671-3

調査期間 平成 31 年 2 月 18 日～2 月 26 日

調査契機 竹の埋設処分

調査面積 27m²

調査概要

調査地は国指定史跡伯耆国府跡 法華寺畑遺跡の北東隅部から東へ約 35 m の位置である。

調査地の基本層序は、上から耕作土（1 層）、黒褐色土（2・3 層）、にぶい黄褐色土（4 層：ソフトローム漸移層）である。2～4 層に遺物を包含し、遺構検出は 4 層上面で行った。

調査の結果、トレンチ西側において竪穴建物 1 棟、中央において柵列とみられる柱穴 2 基を検出

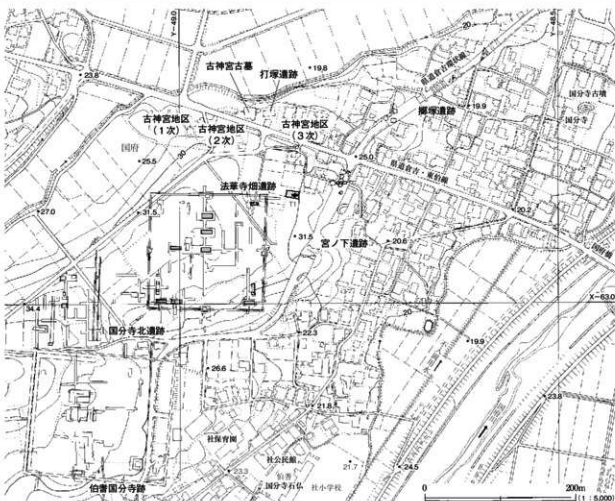
した。柵列の主軸は北より 3° 程西に振る。このほかピットを 9 穴検出している。

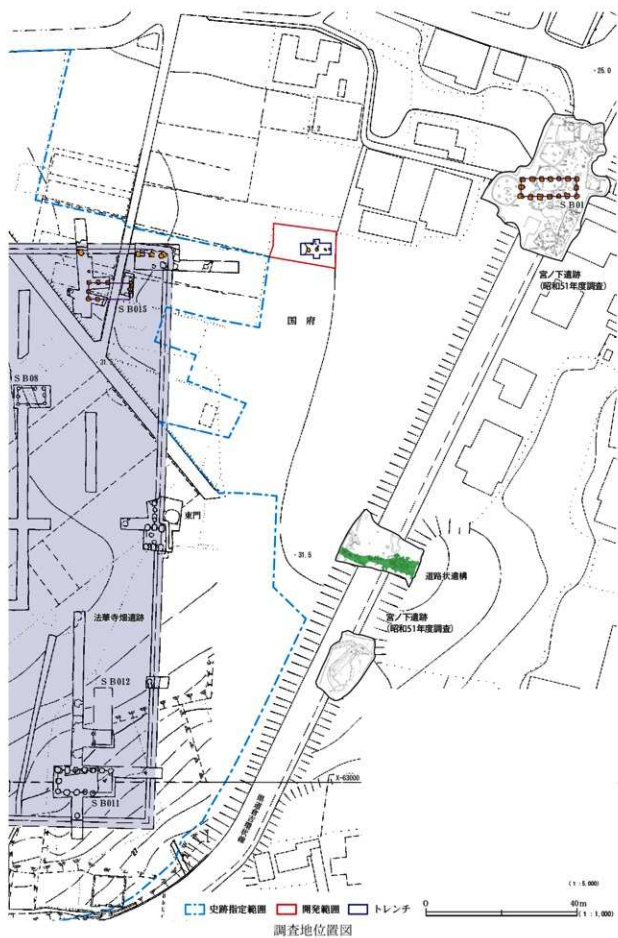
竪穴建物は、方形または多角形プランと思われる。埋土より古墳時代前期の土師器器片が出土しており、それ以前の建物跡と考えられる。

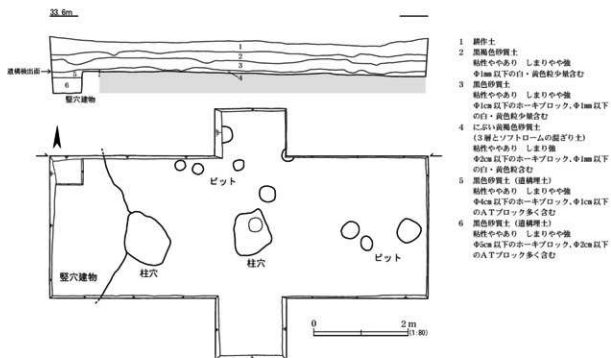
柱穴はいずれも一辺約 0.8 m の隅丸方形を呈し、柱間距離は 2.4 m である。柱穴埋土からは土師質土器片が出土しているほか、遺物包含層より丹塗土師器が出土している。遺構の形状及び出土遺物より、法華寺畑遺跡に関連する柵列の可能性がある。

以上のことから、標高 32.9 m 以下（耕作面から深さ 15cm 以上）に掘削が及ぶ場合には事前の発掘調査が必要である。（田邊）

№	規模 (m)	面積 (m ²)	主な遺構	主な出土遺物
T 1	8 × 3 紙張	27	竪穴建物 1、柱穴 2	弥生土器、土師器、須恵器、奈良瓦、丹塗土師器、土師質土器、須恵質陶器、瓦質土器、紙滓







遺構図



トレンチ1 (東から)

トレンチ1断面
(南東から)



柱穴・竪穴建物検出
(東から)



(1:1)
出土遺物 1 須恵器 环蓋
2 丹塗土師器

3 福光地区（福光ヒビノ原遺跡）

調査地点 倉吉市福光字ヒビノ原 702-1、
702-3

調査期間 平成 31 年 2 月 28 日～3 月 12 日

調査契機 太陽光設備工事

調査面積 30m²

調査概要

調査地は天神野丘陵の北西裾の平坦地に位置する。

調査地の基本層序は、上から黒褐色土（1層：耕作土）、黒褐色土（2層）、暗褐色土（3層：漸移層）である。遺構検出は3層上面で行った。

調査の結果、トレンチ北東隅において竪穴建物1棟、中央やや東寄りにおいてピット1穴を検出した。なお、トレンチ東側にかかる土手状の高ま

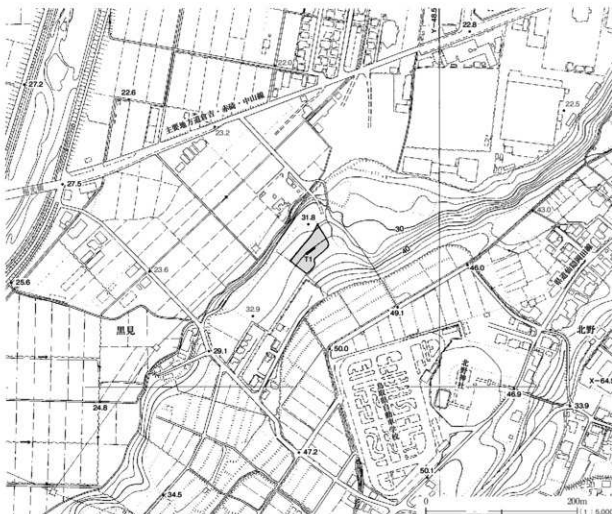
りは、当初土塁の可能性を考えていたが、調査の結果、近年の造成による盛土であることが判った。

竪穴建物は、埋土より古墳時代後期の土師器高坏脚部片（1）が出土しており、それ以前の建物跡と考えられる。トレンチ北東隅において竪穴建物を一部検出したにとどまり、竪穴建物は東側に広がると考えられる。

ピットは直径約 0.4 m のものを 1 穴確認したのみ。埋土よりわずかに土師器片が出土した。

以上のことから、盛土部分については、標高 34.4 m 以下（地表面から深さ 1.2 m 以上）に掘削が及ぶ場合は、事前の発掘調査が必要である。また、盛土部分以外に掘削が及ぶ場合も事前の発掘調査が必要である。（田邊）

No.	規模 (m)	面積 (m ²)	主な遺構	主な出土遺物
T 1	15 × 2	30	竪穴建物 1、ピット 1	土師器



トレンチ1
(南西から)



竪穴建物検出
(南西から)



(3:5)
出土遺物 1 土師器 高坏

4 志津地区（塚ノ山古墳）

調査地点 倉吉市志津字前田 552-1、552-3、552-5、544-1

調査期間 平成 31 年 4 月 22 日

～令和元年 6 月 24 日

調査契機 災害対策

調査面積 54m²

調査概要

調査地は倉吉市志津地区に位置し、関金町と境を接する天神野丘陵に所在する。調査では、前方後円墳である塚ノ山古墳の墳丘測量調査を行った後、後円部北東側・南東側、前方部南西側の周溝推定範囲に 4 箇所のトレンチを設定して確認調査を行った。

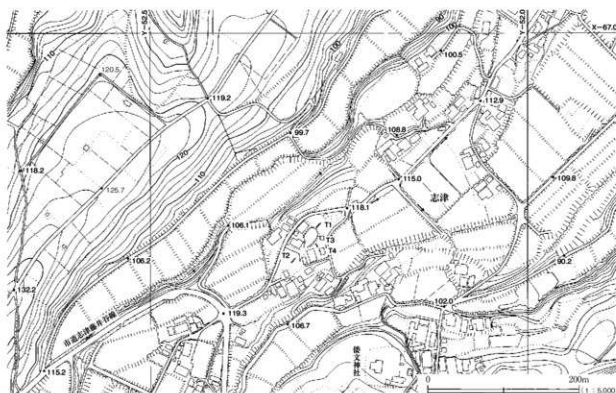
古墳の現状は、墳丘全体が後世に破壊を受けており、くびれ部と前方部が広く自然崩壊している。測量調査の結果、現存する古墳の規模は、全長 42.6 m、後円部直径 24.3 m、後円部高さ 5.2 m、前方部幅 9.4 m、前方部高さ 4.7 m であると明らかになった。

また、確認調査の結果、古墳の周溝を検出した。トレンチ 2 では標高 118.5 m 付近、トレンチ 3

では標高 118.3 m～118.1 m 付近で周溝及び墳丘立上がり部分を検出した。トレンチ 2 で検出した周溝は南北幅約 8 m。トレンチ 3 では周溝の検出は一部にとどまったが、トレンチ 3 東側延長上に設置をしたトレンチ 4 で周溝を確認していないことから、周溝幅はトレンチ 2 と同様に 8 m 以内に取まると考えられる。トレンチ 1 北東側では標高 118.2 m 付近で周溝埋土と思われる黒色土が 15 cm 程薄く堆積しており、周溝埋土上層は後世の削平を受け、周溝埋土下層が一部残っている可能性がある。確認調査の結果より、古墳の墳丘規模を復元すると、全長約 47 m（周溝を含めた場合は約 63 m）となる。

いずれのトレンチからも埴輪（円筒埴輪、壺形埴輪あるいは朝顔形埴輪）の破片が出土した。また、トレンチ 2・3・4 では土師器片、須恵器片を、トレンチ 3 では動物の小像を配したと思われる装飾器台口縁部片、形象埴輪（家形埴輪）の破片が出土した。装飾器台片および円筒埴輪片より、出土遺物の時期は 6 世紀前半と考えられる。

（田邊）



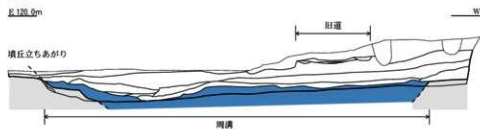


トレンチ配置図及び塚ノ山古墳墳丘復元図

No.	規模 (m)	面積 (㎡)	主な遺構	主な出土遺物
T 1	8 × 2 1 × 2	18	なし	埴輪、土師質土器
T 2	10 × 2	20	前方部墳端、周溝	土師器、須恵器、埴輪、土師質土器、瓦質土器
T 3	7 × 2	14	後門部墳端、周溝	土師器、須恵器、装飾須恵器、埴輪、形象埴輪、丹塗土師器、瓦質土器
T 4	2 × 2 × 1/2	2	なし	土師器、須恵器、埴輪、土師質土器

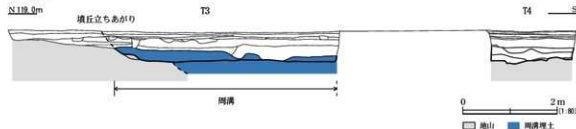
T2 北壁

E 120.0m



T3・4 東壁

N 119.0m



トレンチ断面図



調査地空撮（南から）



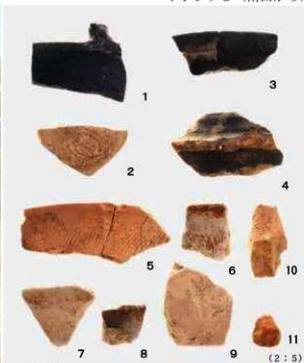
トレンチ1（北東から）



トレンチ2（南西から）



トレンチ3・4（南東から）



出土遺物

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1 須恵器 裝飾器台 (T3) | 7 壺形埴輪 (T3) |
| 2 土師質土器 (T1) | 8 壺形埴輪 (T1) |
| 3 瓦質土器 銅 (T3) | 9 壺形埴輪 (T3) |
| 4 瓦質土器 羽釜 (T2) | 10 形象埴輪 (T3) |
| 5 壺形埴輪 (T3) | 11 形象埴輪 (T3) |
| 6 壺形埴輪 (T1) | |

(2:5)

5 駄経寺町2丁目地区(大御堂廃寺跡(松ヶ坪地区))

調査地点 倉吉市駄経寺町2丁目13-3
調査期間 令和元年5月11日～7月10日
調査契機 個人住宅新築
調査面積 30m²
調査概要

調査地は、国指定史跡大御堂廃寺跡から市道を挟んで南側に隣接し、平成11(1999)年度の第4次発掘調査で確認された東築地塀SA02から南へ約30mに位置する。大御堂廃寺跡(松ヶ坪地区)にあたり、開発予定地の東隣では昭和58(1983)年度に倉吉地方合同庁舎建設に伴う試掘調査¹⁾、西隣では平成29(2017)年度に個人住宅新築に伴う発掘調査²⁾が行われている。

調査地の現況は駐車場である。東築地塀が推定されることから、開発予定地内に1箇所のトレンチを設定して調査を行った。

基本層序は、上から造成土、旧耕土(1層)、旧床土(2層)、奈良時代～中世の遺物包含層(3～6・15層)、大御堂廃寺整地層(9・17～22層)、無遺物層(13・14・23・24層)である。遺構外から出土した遺物は、トレンチ内を東区・中央区・西区に区分して取り上げた。

以下、調査の概要を述べる。

(1) 遺構

東築地塀 トレンチの中央、現地表面より約0.75mの深さで、築地塀の基部と雨落溝を検出した。築地塀の基部幅は3.5m、基部から検出面までの高さは0.5m遺存していた。断削調査を実施していないので、版築工法を確認していない。

築地塀の両側に雨落溝が並行しており、検出面での幅0.5～1.1m、深さ0.8～1.0mの規模で、東西の雨落溝間の距離は心々4.8mである。

これらの遺構は、開発予定地内を南北に縦断するように遺存すると考えられる。

(2) 出土遺物

大御堂廃寺に関連する遺物を中心に報告する。

また、今回の開発に伴う工事立会で刻印瓦と塑像が出土したことから、合わせて報告する。型式分類は特に記載がない場合は『大御堂廃寺跡発掘調査報告書』³⁾に従う。なお、法量の[]は残存値である。

軒丸瓦(1～4) 築地塀検出面でⅧ類(3)、中央区3層よりⅤ類(2)、西区3層よりⅡ類a(1)、西区5層よりⅨ類b(4)が各1点出土。

刻印瓦(5) 平瓦凸部の狭端部と側端部のコーナー付近に「大b」⁴⁾の刻印がある。工事立会時出土。

丸瓦・平瓦 東区で13.7kg、中央区で19.7kg、西区で24.5kg、東雨落溝で2.4kg出土。

青磁(6) 鎚蓮弁文碗の体部。東区3層出土。

白磁(7) 碗か皿の体部。東区15層出土。

鞆羽口(8) 3点出土。8は先端部に黒色の珪酸質物質が付着する。中央区3層出土。

炬燵(9・10) 149g出土。9は外面に黒色の珪酸質物質と銅滓が付着する。10は赤色と黒色の珪酸質物質が付着し、内面に藁スサの痕跡が確認できる。いずれも東区3層出土。

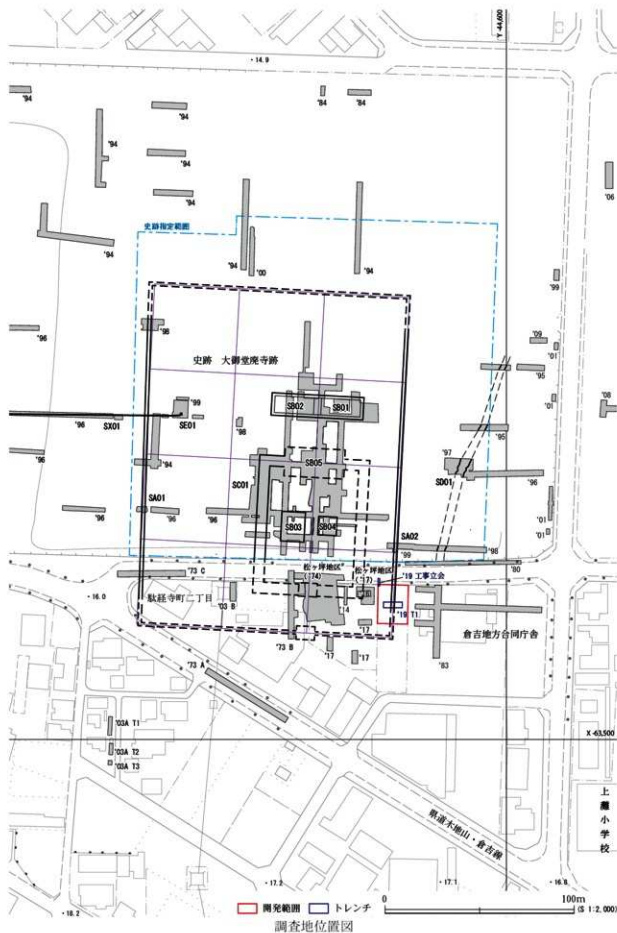
ガラス小玉(11) 直径4mm、重さ0.05gで、水色を呈する。築地塀検出面出土。

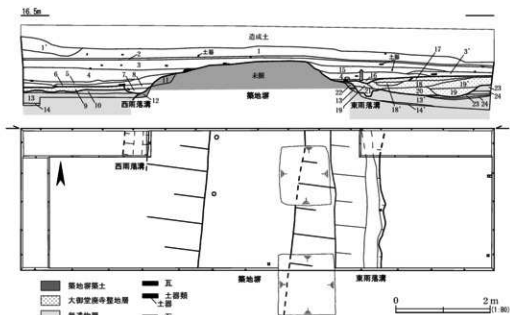
塑像(C1～C3) 如来像の螺髪(C1・2)と部位不明の断片(C3)がある。螺髪はいずれも円錐形、巻方向は左で、巻き数は4。表面の一部に赤色の顔料が遺存する。C2には合せ型の痕跡が残り、底面は平らで孔なし。

C1は底径[1.4]cm、最大径1.7cm、高さ2.1cm、C2は底径1.6cm、最大径1.7cm、高さ[1.9]cm、C3は高さ[4.8]cm、幅[4.5]cm、厚さ[2.2]cm。いずれも工事立会時出土。

(3) まとめ

調査の結果、東築地塀を検出し、史跡指定地外の南側において、大御堂廃寺の遺構を初めて確認した。また、工事立会で出土した塑像螺髪(C1・2)は、平成29年度調査で出土した螺髪とほぼ





- 1 灰色粘質土（炭粒、白色粒、褐色粒混じる）
しまりあり、粘性中 一組跡土
- 1' 1層に黄灰色粘質土が混じる。
- 2 黄褐色粘質土（マンガン多く混じる）。炭粒、白色粒、褐色粒混じる）
しまりあり、粘性中 一組跡土
- 3 灰色砂混じり粘質土（マンガン、炭粒、焼土粒、白色粒、褐色粒混じる）
しまりあり、粘性中
- 3' 3層よりやや粘性が強い。
- 4 灰色砂混じり粘質土と黄灰色砂混じり粘質土の混じり土
（マンガン、炭粒、焼土粒、白色粒、褐色粒混じる）しまりあり、粘性中
- 5 黄灰色シルト（炭粒、白色粒、少し混じる）
- 6 黄褐色砂混じり粘質土（マンガン、炭粒、白色粒混じる）
しまりあり、粘性やや強（11層より弱）
- 7 灰黄色粘質土（マンガン、白色粒混じる）
しまりあり、粘性やや強
- 8 灰白色砂混じり粘質土（灰オリーブ色シルトのブロック少し混じる）
しまりあり、粘性中 一雨落溝土
- 9 灰色砂混じり粘質土と暗灰色砂混じり粘質土の混じり土
しまりあり、粘性やや強 一雨落溝土
- 10 灰白色砂質土
しまりあり、粘性弱
- 11 灰黄色砂混じり粘質土（マンガン、炭粒、白色粒、褐色粒混じる）
しまりあり（強い）、粘性強 一築土
- 12 黄褐色砂混じり粘質土に暗灰色粘質土混じる
しまりあり、粘性やや強 一築土（瀬川地盤か）
- 13 灰色粗粒砂
しまりなし、粘性なし
- 13' 13層がマンガンにより赤褐色を呈する。
- 14 灰白色粗粒砂
しまりややあり、粘性なし
- 15 灰土（炭粒、焼土粒、白色粒混じる）
しまりあり、粘性中
- 16 灰白色粗粒砂（マンガン混じる）
しまりややあり、粘性なし 一雨落溝埋土
- 17 暗灰色粘質土（マンガン、炭粒、白色粒、褐色粒混じる）
しまりあり、粘性強
- 18 灰色シルト（マンガン多く混じる、白色粒混じる）
しまりあり、粘性強
- 18' 18層に白色粒混じる。
- 19 灰色砂混じり粘性土（マンガン多く混じる、白色粒混じる）
しまりあり、粘性やや強
- 19' 19層に灰白色シルトのブロック混じる。
- 20 灰色砂混じり粘質土（マンガン、白色粒、褐色粒混じる）
しまりあり、粘性やや強
- 21 灰色粘質土（白色粒混じる、マンガン少し混じる）
しまりあり、粘性やや強
- 22 灰色砂混じり粘質土（白色粒、褐色粒混じる）
しまりあり、粘性中～やや強 一築土（瀬川地盤か）
- 23 灰色砂質土
しまりあり、粘性中
- 24 灰色シルト
しまりあり、粘性強

遺構図

同形同大であり、等身大もしくは半丈六の如来像
のものと復元できる。

（4）今後の取扱い

標高 15.6 m 以下（歩道面から深さ 85cm 以上）
に、幅 1 m 以上の掘削が及ぶ場合、事前の発掘調
査が必要である。

（小田）

1）森下哲哉「松ヶ坪遺跡（駄経寺町2丁目地区）」『倉吉市内

遺跡分布調査報告書』倉吉市文化財調査報告書第 33 集

1984 年

- 2）小田芳弘「大御堂庵寺跡（松ヶ坪地区）発掘調査」『倉
吉市内遺跡分布調査報告書 20』倉吉市文化財調査報告書
第 154 集 2019 年
- 3）眞田廣幸ほか「史跡大御堂庵寺跡発掘調査報告書」倉吉市
文化財調査報告書第 107 集 2001 年
- 4）眞田拓郎・水村直人「大御堂庵寺の瓦について」『調査研
究紀要 13』鳥取県埋蔵文化財センター 2021 年（刊行
予定）

No.	規模 (m)	面積 (㎡)	主な遺構	主な出土遺物
T 1	10 × 3	30	築地層 1、雨落溝 2	布目瓦（軒丸瓦、丸瓦、平瓦）、須恵器、丹塗土師器、黒色土器、土師質土器、青磁、白磁、陶器、輪郭口、鉄滓、銅滓、砂壁、ガラス小玉、塑像、土師

トレンチ1
東築地堀検出
(南東から)



トレンチ1断面
(南東から)



出土遺物 (1~4 1:3 / 6~10, C3 1:2 / 5, 11, C1~2 1:1)

6 横田地区

調査地点 倉吉市横田字東福田寺 998 - 4
 調査期間 令和元年 8 月 20 日～8 月 27 日
 調査契機 農業ビッキング施設新築工事
 調査面積 15m²
 調査概要

調査地は倉吉市街地の西方に約 4 km 離れた倉吉市横田字東福田寺に所在する。調査地北側隣接地（現：JA 中央物流センター）では平成 11 年度に福田寺遺跡 3 次発掘調査を行っており、弥生

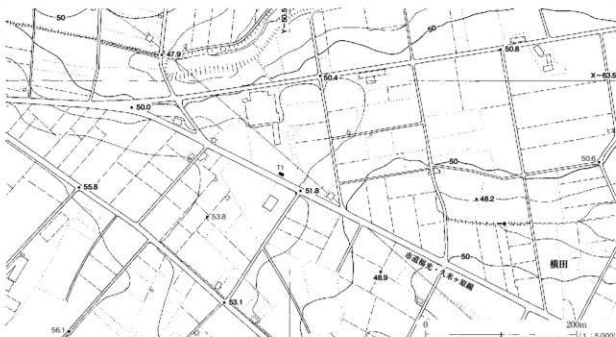
時代中期の竪穴建物、貯蔵穴、時期・性格不明の溝状遺構を確認している¹⁾。開発予定地内に 1 箇所のトレンチを設定して調査を行った。

基本層序は、上から造成土、黒色土（クロボク）、黒褐色土（ソフトローム漸移層）である。

調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

以上のことから、調査地内に遺跡は存在しないと判断される。（田邊）

No.	規模 (m)	面積 (m ²)	主な遺構	主な出土遺物
T 1	6 × 2.5	15	なし	なし



1) 森下哲哉『福田寺遺跡発掘調査報告書（3 次調査）』倉吉文化財調査報告書第 105 集 2000 年

トレンチ 1（南東から）

7 井手畑地区

調査地点 倉吉市井手畑字下手通 69-2
 調査期間 令和元年9月30日～10月3日
 調査契機 広告塔設置工事
 調査面積 4 m²
 調査概要

調査地は倉吉市街地から北に約4 km離れた倉吉市井手畑字下手通に所在し、南屋敷遺跡にあたる。調査地の250 m東では平成8年度に試掘・確認調査が行われており、表土下0.8～1.0 mの深さで住居状遺構・溝状遺構を確認している¹⁾。

調査地の現況は宅地で、アスファルトにより舗装されている。開発予定部分に1箇所のグリッドを設定して調査を行った。

基本層序は、上から造成土(1.4 m)、灰色砂(0.2 m)である。周辺の水田の状況から約0.6 mの深さで確認されと考えられた水田耕土及びその下の包含層は、造成により削られている。

調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。以上のことから、調査地内に遺跡は存在しないと判断される。(片岡)

No.	規模 (m)	面積 (m ²)	主な遺構	主な出土遺物
G 1	2×1.8	3.6	なし	なし



1) 岡本智則「17 中江地区(南屋敷遺跡)」『倉吉市内遺跡分布調査報告書Ⅸ』倉吉文化財調査報告書第87集 1997年



グリッド1 (北から)

8 西倉吉町地区（北の城跡）

調査地点 倉吉市西倉吉町字中ノ城 236-1、
227-4

調査期間 令和元年 10 月 30 日～12 月 24 日

調査契機 国有地売却

調査面積 48.5m²

調査概要

調査地は、倉吉市街地から西に約 1 km 離れた倉吉市西倉吉町字中ノ城に所在し、北の城の推定地である。『伯耆民談記』¹⁾ 巻之第十三「久米郡古城之事」の項には、北の城について「灘の郷岡田村にあり、当城も岩倉の支城なり、城主分明ならず、口碑に南條中務太輔元忠居住せしといへり、中務此城へ居住の事不審なり、地城にして惣廻りに大いなるから堀有り、民間之れを一社堀といふ、北の城とは本城岩倉より北に当る故かく名くと云へり」と記される。北の城の築城時期は定かではないが、本城とされる岩倉城は平安時代末期から近世初頭まで続く小鴨氏累代の居城であった。調査地の約 200 m 南に所在する空岡田遺跡では、平成 10 年度の試掘・確認調査で中世の土壌、ピットなどを確認している²⁾。また、調査地の南西約 200 m にある倉吉西中学校のグラウンドで、幅約 9 ～ 10 m の堀跡を平成 28 年度の空中写真

で確認している。

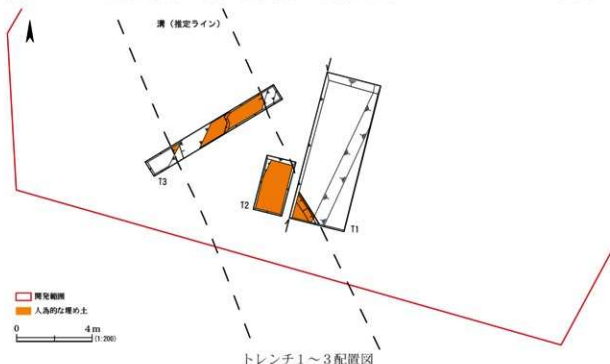
調査地の現況は宅地で、中国財務局の旧宿舍敷地である。敷地内に 4 箇所のトレンチを設定して調査を行った。

基本層序は、上から表土、造成土、黒色土（クロボク）、暗褐色土（漸移層）、褐色土（ソフトローム）、黄灰色砂質土（ホーキ）である。

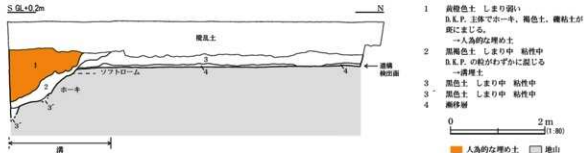
調査の結果、トレンチ 1 ～ 3 の造成土（現地表面から約 30 ～ 60 cm の深さまで）下で幅約 6 m と推定される、北西—南東方向の溝を検出した。トレンチ 1 の溝にサブトレンチを設定し現地表面からの深さ約 1.4 m まで土層を確認したところ、溝埋土は大部分が D.K.P. を主体とする人為的な埋め土で、その下層には黒褐色土が堆積する。黒褐色土より奈良甕や須恵器高台付坏、内面に漆が付着した土師器片などが出土した。溝は 11 世紀代の土師器を包含する黒色土層を切っており、時期は 11 世紀以降と考えられる。北の城跡に関連する堀の可能性がある。トレンチ 4 では遺構を確認していないが、造成土下の黒色土から土師器などが出土している。

以上のことから、開発に際しては、事前協議が必要である。

（片岡）



T1 西壁
S 0.0±0.2m



トレンチ1断面図

坑	規模 (m)	面積 (㎡)	主な遺構	主な出土遺物
T 1	8×3	24	溝	弥生土器、土師器、土師質土器、陶磁器、奈良甕、移動式甕、煎石、鉄製品（釘、棒状、板状）
T 2	3×1.5	4.5	溝	土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、陶磁器
T 3	8×1	8	溝	弥生土器、土師器、須恵器、奈良甕、瓦質土器火鉢、陶磁器
T 4	3×3 3×1	12	なし	弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、奈良甕、磁器（染付）



トレンチ1～3
(北東から)

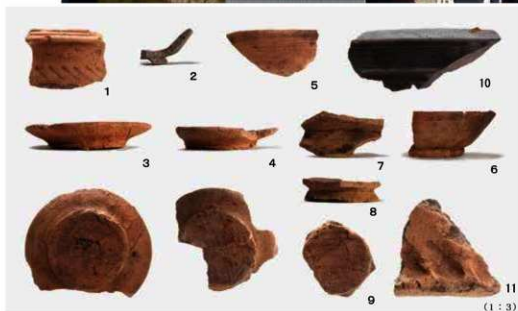


トレンチ3（北から）

トレンチ1南西隅
溝断面（東から）



倉吉西中学校
グラウンドの掘跡
空撮（上が西）



- | | | | |
|------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 出土遺物 | 1 弥生土器 甕 (T1) | 5 土師器 环 (T1) | 9 土師器 环 (T1) |
| | 2 須恵器 高台付环 (T1) | 6 土師器 台付塊 (T1) | 10 瓦質土器 香炉 (T3) |
| | 3 土師器 皿 (T1) | 7 土師器 高台付环 (T1) | 11 甕 (T1) |
| | 4 土師器 皿 (T1) | 8 土師器 高台付环 (T1) | |

9 上神地区（上神宮ノ前遺跡）

調査地点 倉吉市上神字宮ノ前 741-1
 調査期間 令和2年1月9日～1月16日
 調査契機 個人住宅新築
 調査面積 20m²
 調査概要

調査地は、倉吉市街地から北西に約5km離れた倉吉市上神字宮ノ前に所在し、東伯郡北栄町の蜘蛛ヶ山から南に派生する丘陵裾部の尾根に挟まれた浅い谷部分に位置する。上神宮ノ前遺跡に位置し、調査地の約10m北側では平成9年度に発掘調査が実施され、竪穴建物や掘立柱建物などを検出したほか、5～8世紀にかけての祭祀遺物の集中する箇所を確認している¹⁾。

調査地の現況は畑地である。工事では現地表面から最大で約50cmの深さの掘削が計画されていたため、敷地内にトレンチとグリッドを1箇所ずつ

つ設定し、30cm以上の保護層を含めた深さ90cmまでの遺構を確認するための調査を行った。

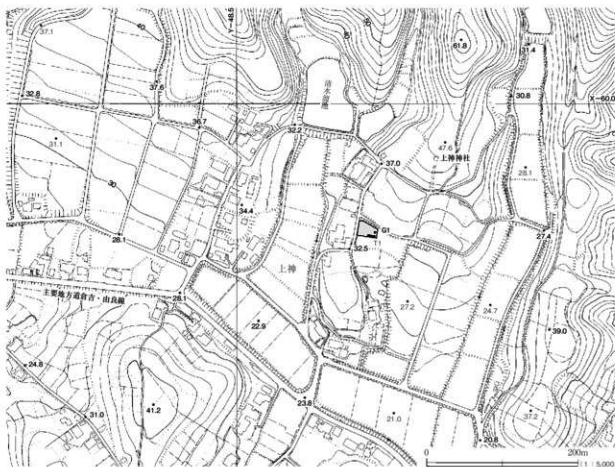
基本層序は、上から表土、褐色土、暗褐色土である。

調査の結果、トレンチ1、グリッド1ともに現地表面から90cmまでの深さで遺構は確認できなかった。遺物は褐色土・暗褐色土より、弥生時代～中世の土器片が出土した。特に暗褐色土での遺物量が多く、層全体に土器細片が多量に混じる。

以上のことから、開発に際して現地表面から60cm（遺構が無いことを確認した深さ90cm－保護層30cm）以下に掘削が及ぶ場合には、事前協議が必要である。（片岡）

1) 加藤誠司『上神宮ノ前遺跡発掘調査報告書』倉吉市文化財調査報告書第98集 1999年

No.	規模 (m)	面積 (㎡)	主な遺構	主な出土遺物
T1	8×2	16	なし	弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、奈良甕、瓦質土器
G1	2×2	4	なし	土師器、須恵器、土師質土器、甕





トレンチ1 (西から)



グリッド1 (西から)



(2:5)

出土遺物

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 須恵器 蓋 (G1) | 4 奈良甕 (G1) |
| 2 須恵器 高台付皿 (G1) | 5 土師器 甕 (G1) |
| 3 奈良甕 (T1) | 6 瓦質土器 鍋 (T1) |

10 福庭地区

調査地点 倉吉市福庭字長谷 854 - 457・
458・460・461・462・463

調査期間 令和2年2月20日

調査契機 駐車場用通路造成工事

調査面積 10m²

調査概要

調査地は倉吉駅から東に約1km離れた倉吉市福庭字長谷に所在し、福庭第一遺跡にあたる。大平山中腹にある鳥取看護大学・鳥取短期大学敷地の北東隅部分の、丘陵尾根上に位置する。鳥取女子短期大学の敷地造成及び建築工事に伴って、昭和45年に発掘調査が行われており、弥生時代の

の竪穴建物や土壇などが確認されている¹⁾。平成22、26年に行われた調査地西側の駐車場造成に伴う試掘・確認調査では、尾根上のトレンチにおいて遺構・遺物ともに確認していない²⁾。

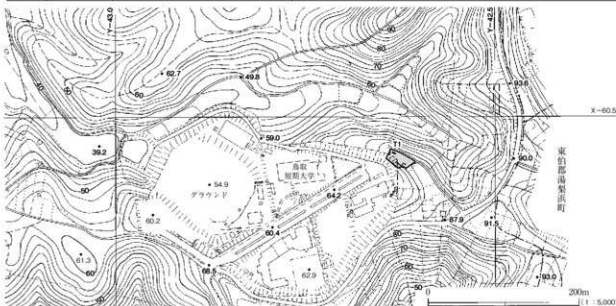
現況は山林である。駐車場新設予定地の進入路の造成工事が計画されている。開発予定部分に1箇所のトレンチを設定して調査を行った。

基本層序は、上から表土(15～20cm)、褐色土(ソフトローム)である。

調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

以上のことから、調査地内に遺跡は存在しないと判断される。(片岡)

No.	規模 (m)	面積 (㎡)	主な遺構	主な出土遺物
T1	2×5	10	なし	なし



- 1) 株式会社藤田組編『倉吉・福庭遺跡』1970年
- 2) 箕田拓郎「13 福庭地区」『倉吉市内遺跡分布調査報告書16』倉吉市文化財調査報告書第136集 2011年
箕田拓郎「6 福庭地区」『倉吉市内遺跡分布調査報告書18』倉吉市文化財調査報告書第144集 2015年

トレンチ1 (南東から)

11 不入岡A地区（不入岡遺跡群（壱本榎地区））

調査地点 倉吉市不入岡字壱本榎 967、968
 調査期間 令和2年2月26日～3月9日
 調査契機 農業用倉庫新設工事
 調査面積 48m²
 調査概要

調査地は、倉吉市街地から北西に約2.5km離れた倉吉市不入岡字壱本榎に所在し、不入岡遺跡の西側に隣接する。不入岡遺跡では平成5年度からの発掘調査¹⁾により、弥生時代から室町時代にかけての遺構が確認されている。中でも7世紀後半から9世紀代の遺構として多くの掘立柱建物跡などが確認され、8世紀前半は伯耆国の前身国庁、8世紀後半以降10世紀までは伯耆国管轄の倉庫群が建ち並んでいたと考えられる。

現況は畑地で、農業用倉庫新設に伴って、①幅1m以上、農道面から92cmの深さ（畑地表面からは約75～90cm）の掘削を伴う基礎工事、②幅約70cm、農道面から61cmの深さ（畑地表面からは約45～60cm）の掘削を伴う地中梁工事が予定されている。事業予定地内に2箇所のトレン

チを設定して調査を行った。

基本層序は、上から耕作土、客土、褐色土（ソフトローム）、黄灰色砂質土（ホーキ）である。地山面は南から北へ緩やかに傾斜しており、トレンチより北側の未試掘箇所についても同様の地形と考えられる。

調査の結果、トレンチ1・2とも南は現地表面から約50cmの深さ、北は約80cmの深さまで、圃場整備のものと思われる客土が堆積していた。客土下のソフトローム上で柱穴を複数基確認した。柱穴の検出面で8世紀代の奈良瓦片（2）が出土したほか、耕作土や客土より、奈良時代から室町時代にかけての遺物が出土した。

以上のことから、幅1m以上の掘削を伴う①に際して事前の発掘調査、幅1m未満の掘削を伴う②に際して工事立会が必要である。（片岡）

1) 竹宮重也子・岡本智則ほか『不入岡遺跡群発掘調査報告書
 不入岡遺跡・沢べり遺跡2次調査』倉吉市文化財調査報告書第85集 1996年

No.	規模 (m)	面積 (m ²)	主な遺構	主な出土遺物
T1	8×3	24	ピット	土師器、須恵器、奈良瓦、瓦質土器、甕、青磁、陶磁器
T2	8×3	24	ピット	土師器、須恵器、奈良瓦



トレンチ1（南から）

トレンチ2（南から）



トレンチ2 断面
（北西から）



出土遺物 1 須恵器 坏蓋（T1）
2 奈良甕（T2）
3 青磁 碗カ（T1）

12 桜地区（大日寺遺跡群）

調査地点	倉吉市桜字ヶ市 354
調査期間	令和2年4月8日～6月1日
調査契機	大日寺本堂改築工事
調査面積	51m ²
調査概要	

調査地は、倉吉市街地より南西へ12km離れた、大日寺境内である。境内では平成7年度に位牌堂改築に伴って試掘調査が行われたが、遺構は確認されなかった¹⁾。今回は、本堂跡とその周辺に2箇所のトレンチと1箇所のグリッドを設定して調査を行った。

調査地の基本層序は、上から本堂基壇土、旧本堂基壇土、下層建物基壇土、整地層、黒色粘質土（遺物包含層）、黒色土、暗褐色土、褐色土（ソフトローム）である。以下、調査の概要を述べる。

（1）遺構

本堂を含め、次の4時期の遺構を確認した。

I 期

石列 トレンチ2の東寄りで検出した、南北方

向の石列。東面するように自然石が1～2段積み、長さ3.6m、高さ0.4m分遺存する。この石列は外装石のようにみえるが、石列の内西側では硬化面を断面で確認するのみに留まったため、性格は不明である。

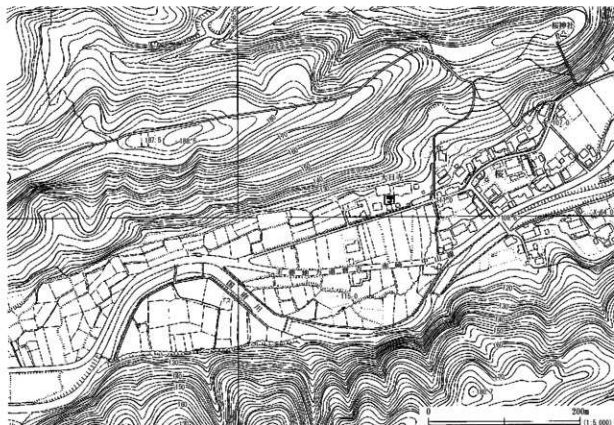
II 期

下層建物 トレンチ1の北寄りで検出した、南面する礎石建物。南辺中央の階段部分が突出し、平面形は逆凸字形を呈する。規模は東西復元11.0m、南北3.0m以上（突出部を含む）。

暗褐色土（28層）によって、1期の石列を含めて広範囲に整地した後、基壇を構築している。基壇外装には割石や平坦面をもつ自然石が用いられ、最下段の外装石が遺存する。他に向拝の礎石2石を検出。長軸48cmで、いずれも側面を粗く削って加工が施されている。

遺物は、整地層より重ね焼きの痕跡が残る陶器皿（11）、天目茶碗（12）、外装石検出時に京焼の灯明皿（13）が出土した。

土壇 下層建物のすぐ南、整地層上面で検出し



た。平面形は隅丸方形で、長さ 0.8 m、幅 0.7 m、検出面からの深さ 0.5 m。埋土中に割石の破片が多く含まれたが、遺物は出土しなかった。

Ⅲ期

旧本堂 東面する石場建ての礎石建物。基壇の北側 1/4 は、下層建物の基壇と重複する。建物は正面 3 間、側面と背面 4 間である。基礎石は長径 52 ～ 88cm の自然石、礎石は長軸 66 ～ 75cm の自然石である。

遺物は、基壇南辺の最下層より鉄製鎌 (14)、基壇東辺の最下層より鉄製十能 (15)、基壇土中より寛永通寶 (16) が出土した。

Ⅳ期

本堂 東面する礎石建物。東辺中央の階段部分が突出し、平面形は逆凸字形を呈する。規模は旧本堂と同規模で、南北 8.2 m、東西 7.8 m (突出部を含む)。基礎石は長さ 60 ～ 120cm、幅 24cm、厚さ 20cm の延石。礎石は旧本堂のものを再利用している。

須弥壇直下の基壇上で、一字一石経が 688 点出土した。掘方が確認できなかったため、基壇上に直接置かれたと考えられる。

(2) 出土遺物

大日寺に関連する主な遺物を報告する。法量の [] は残存値である。

瓦経 (17) 大日寺瓦経の左下隅の小片。表面に「□観」、裏面に「□／者」の経文が確認できる。縦 [4.0] cm、横 [3.7] cm、厚さ 1.5cm。焼成は普通で、色調は灰白色。トレンチ 2 北側拡張区 34 層で出土。

一字一石経 (18) 長径 1.6 ～ 7.4cm、短径 1.4 ～ 6.1cm の川原石に、漢字 1 文字が墨書されたもの。688 点出土し、そのうち文字を判別できたものが 262 点 (38.1%)、文字を判別できないが墨痕の残るものが 193 点 (28.1%)、墨痕を確認できなかったものが 233 点 (33.8%) である。文字の詳細は下表のとおり。

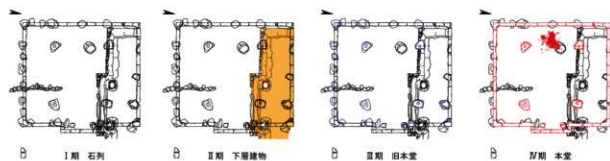
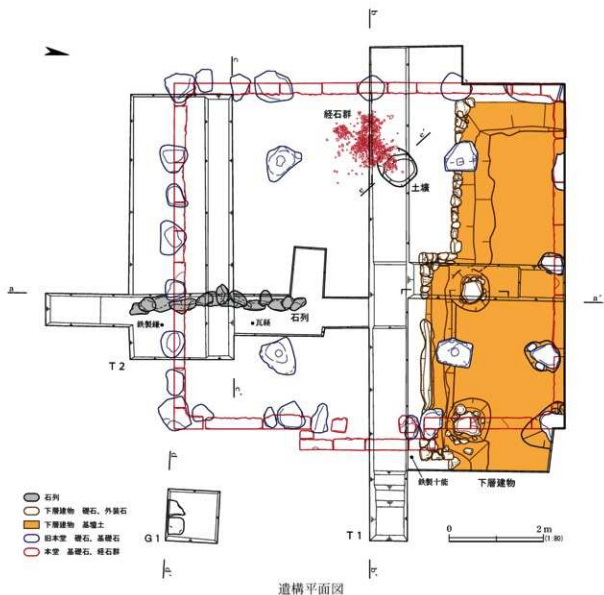
経石の点数が限られることと出土位置より、本堂の鎮壇具と考えられる。

(3) まとめ

調査の結果、本堂を含めて 3 棟の建物と 1 条の石列を確認した。下層建物は、建物の規模より、旧本堂以前の本堂と考えられる。その建立時期は、整地層に含まれる陶器より、中世後期～江戸時代

一字一石経文字一覧 (数字は出土点数)

王 8	通 3	陀 2	皆 1	作 1	身 1	服 1
佛 7	徳 3	天 2	皆 1	三 1	費 1	復 1
羅 6	羅 3	等 2	解 1	死 1	瑞 1	寶 1
薩 5	婆 3	二 2	漢 1	師 1	生 1	本 1
諸 5	日 3	尼 2	感 1	之 1	正 1	毎 1
是 5	興 3	白 2	岸 1	思 1	足 1	味 1
大 5	量 3	般 2	喜 1	耳 1	國 1	満 1
優 5	樓 3	彼 2	起 1	自 1	卒 1	彌 1
丘 4	阿 2	吾 2	吉 1	事 1	多 1	門 1
眷 4	迦 2	有 2	及 1	余 1	蘭 1	樂 1
此 4	其 2	業 2	教 1	賢 1	陸 1	右 1
百 4	供 2	行 2	行 1	者 1	提 1	美 1
無 4	光 2	蘭 1	玉 1	若 1	土 1	樂 1
通 3	四 2	異 1	緊 1	主 1	等 1	龍 1
界 3	子 2	以 1	下 1	前 1	答 1	陵 1
俱 3	至 2	一 1	月 1	受 1	當 1	連 1
見 3	蒙 2	因 1	向 1	重 1	得 1	威 1
種 3	照 2	雨 1	好 1	出 1	那 1	合計 262
修 3	神 2	音 1	獄 1	如 1	入 1	
世 3	人 2	詞 1	今 1	小 1	念 1	
千 3	善 2	可 1	坐 1	定 1	波 1	
相 3	曾 2	伽 1	在 1	飾 1	美 1	



遺構変遷図

期	規模 (m)	面積 (㎡)	主な遺構	主な出土遺物
T 1	9 × 2 拡張	33.7	建物基礎 1、土壇 1	須恵器、土師器、丹塗土師器、奈良甕、土師質土器、須恵質陶器、備前焼、唐津焼、京焼、天目茶碗、磁器、土製支脚、転用碗、焼瓦、赤瓦、鉄製土能、寛永通寶、一字一石経
T 2	5.5 × 2.2 拡張	16.3	石列 1	須恵器、土師器、丹塗土師器、奈良甕、瓦質土器、土師質土器、須恵質陶器、唐津焼、磁器、焼瓦、赤瓦、瓦経、鉄製罐
G 1	1 × 1	1	石列	弥生土器、須恵器、土師器、丹塗土師器、陶器、磁器、焼瓦



調査前全景（東から）



調査後全景（東から）

トレンチ1
北壁断面（南東から）



トレンチ1
南壁断面（北西から）



トレンチ2
北壁断面（南東から）





下層建物基壇検出
(南から)



下層建物基壇検出
(南西から)



下層建物基壇断割り
(南西から)



下層建物基礎と位牌堂（東から）



石列検出（南から）



石列検出（東から）

初期頃と推定される。さらに、県内における寺院本堂は150～200年ごとに建替えが行われることが一般的である²⁾ことから、旧本堂は江戸時代中期頃、本堂は江戸時代末頃に建立されたと推定される。

記録をして掘り下げた。よって、トレンチ外の布基礎敷設範囲において、掘方掘削時に工事立会が必要である。（小田）

（4）今後の取扱い

トレンチ内で検出した遺構は、下層確認のため、

1) 岡本智剛「8 桜ヶヶ市地区」『倉吉市内遺跡分布調査報告書Ⅸ』倉吉市文化財調査報告書第87集 1997年

2) 眞田廣幸氏によるご教示。



土壇完掘（南西から）



グリッド1（北から）



絛石群（一字一石絛）出土状況（東から）



鉄製鎌出土状況（上が北）

出土遺物（写真は右ページ）

- 1 奈良興（T2）
- 2 丹塗土師器 高台付坏（T2）
- 3 土師質土器 皿（T2）
- 4 土師質土器 坏（G1）
- 5 土師質土器 坏（T1）
- 6 土師質土器 鍋（T2）
- 7 土師質土器 灯明皿（T1）
- 8 須恵器 壺（T2）
- 9 須恵土器 鉢カ（T2）
- 10 須恵質陶器 転用硯（T1）
- 11 陶器 皿（T1）
- 12 天目茶碗（T1）
- 13 京焼 灯明皿（T1）
- 14 鉄製鎌（T2）
- 15 鉄製十能（T1）
- 16 寛永通寶（T1）
- 17 瓦絛（T2）
- 18 一字一石絛



出土遺物（詳細は左ページに記載）

13 下福田・国府地区（下福田金鍔谷遺跡・下福田後口野遺跡）

調査地点	倉吉市下福田字金鍔谷・字後口野、 国府字高峰・字大沢・字北平ラ	（褐色土～橙褐色粘質土）であった。遺構検出は 褐色土～黄灰色砂質土上面で行った。
調査期間	令和2年6月16日～6月18日 10月5日～10月29日	調査の結果、T12とT14で遺構を検出した。
調査契機	県営特定農業用管路等特別対策 事業	T12 トレンチ西部、道路面より約0.3mの 深さで、南北に延びる溝の一部を検出した。2条 の溝が切り合っていて、規模は長さ1.5m以上、 幅0.9～1.4m、深さ0.6mを測る。溝を完掘し たが、遺物が出土しなかったため、時期や性格は 不明である。
調査面積	211m ²	T14 トレンチ南端、道路面より約1.5mの 深さで、竪穴建物の一部を検出した。建物の規模 は長さ1.6m以上、床面の規模は長さ1.3m以上、 検出面から床面までの深さは0.6mを測る。床面 で周壁溝の一部とピット1穴を検出した。周壁溝 は幅12cm、深さ6cm、ピットは長径14cmを 測る。遺物は、竪穴建物の埋土中より古墳時代の 土師器甕（4）や高坏（5）の破片が出土した。
調査概要		これら以外のトレンチでは遺構を確認できず、 遺物の出土量も少量であった。

調査地は、倉吉市西郊の久米ヶ原丘陵上に立地する国府大沢遺跡（T1～T6）、高峰遺跡（T7）、下福田後口野遺跡（T8～T13）、下福田金鍔谷遺跡（T14）内に位置する。高峰遺跡では平成11年度に発掘調査が行われ、縄文時代の落し穴2基、弥生時代後期の竪穴建物1棟、掘立柱建物1棟、溝状遺構1条が確認されている¹⁾。

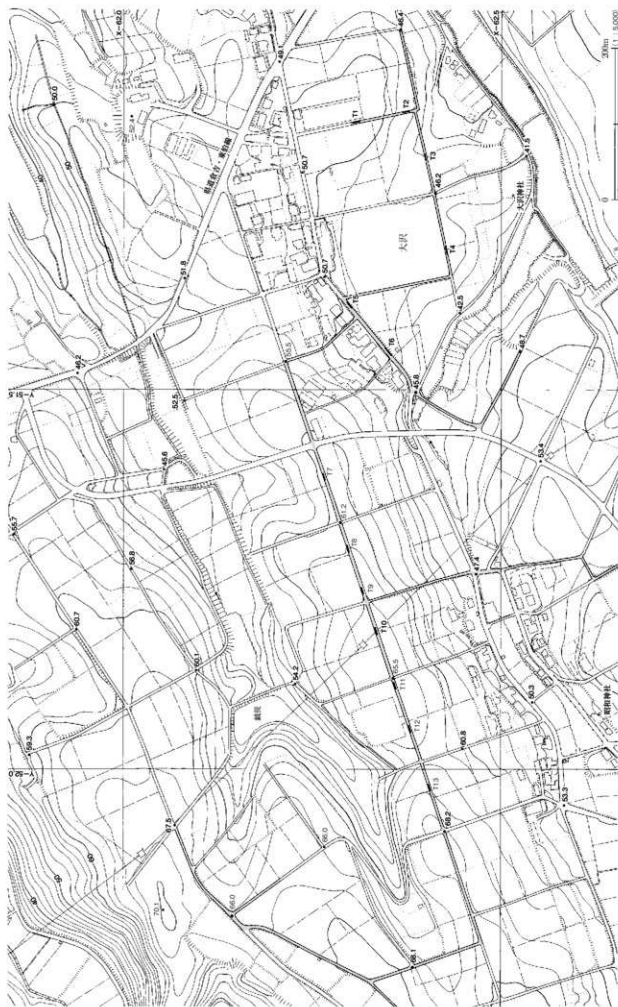
調査地の現況はアスファルト舗装の農道・市道である。開発予定地内に14箇所のトレンチを設定して調査を行った。

基本層序は、上から造成土、黒色土、褐色土（ソフトローム）、漸移層、黄灰色砂質土（ホーキ火山灰砂）、黄褐色砂質土（A・T：始良・丹沢火山灰層）、橙褐色粘質土（礫混じり粘質土層）である。ただし、T1・2・4・6・12～14では、ほ場整備等に伴う削平により、造成土直下が地山

以上のことから、T12・T14の周辺以外に遺跡は存在しないと判断される。（小田）

1) 加藤誠司『大沢遺跡群 高峰遺跡・矢内谷峰遺跡発掘調査報告書』倉吉市文化財調査報告書第102号 2000年

No.	規模 (m)	面積 (㎡)	主な遺構	主な出土遺物
T1	10 × 1.1	11	なし	なし
T2	10 × 1.1	11	なし	なし
T3	10 × 1.1	11	なし	弥生土器、丹塗土師器、磁石
T4	10 × 1.1	11	なし	なし
T5	10 × 1.6	16	なし	弥生土器
T6	14 × 1.5	21	なし	なし
T7	10 × 1.6	16	なし	弥生土器、磨製石斧
T8	10 × 1.5	15	なし	弥生土器、磁石
T9	10 × 1.5	15	なし	弥生土器
T10	10 × 1.7	17	なし	弥生土器
T11	10 × 1.5	15	なし	弥生土器
T12	10 × 1.5	15	溝2	なし
T13	10 × 1.7	17	なし	縄文土器、弥生土器
T14	10 × 2	20	竪穴建物1	土師器、陶磁器、赤瓦、窯具



トレンチ 12
(北東から)



トレンチ 12
溝完掘
(北西から)



(1 : 2)

- | | | | | | | |
|------|---|----------------|---|---------------|---|------------|
| 出土遺物 | 1 | 縄文土器 浅鉢 (T 13) | 4 | 土師器 甕 (T 14) | 7 | 磨製石斧 (T 7) |
| | 2 | 弥生土器 甕 (T 8) | 5 | 土師器 高坏 (T 14) | 8 | 砥石 (T 8) |
| | 3 | 弥生土器 器台 (T 9) | 6 | 丹塗土師器 皿 (T 3) | | |

14 不入岡B地区（不入岡遺跡）

調査地点 倉吉市不入岡地先
 調査期間 令和2年11月24日
 調査契機 配水管布設工事
 調査面積 6m²
 調査概要

調査地は、倉吉市街地より北西へ2.2km離れた、久米ヶ原丘陵の東端部付近に立地する。国指定史跡伯耆国府跡 不入岡遺跡の南側に隣接し、前身国庁の内郭の西を区画する南北溝（SD 03）南端より南へ約51mの延長線上に位置する（位置図は本書30ページ参照）。現況は県道である。配水管布設工事に伴う工事立会で、不入岡遺跡に関連する可能性のある遺構を確認したため、測量調査及び写真撮影を行った。

調査地の基本層序は、道路構築に伴う造成土、黄灰色砂質土（ホーキ）である。

調査の結果、道路面より約0.9mの深さで、2条の溝を確認した。調査地の東寄りで検出した1号溝は、溝の西肩が遺存し、幅1.5m以上、長さ1.6m以上である。遺物は出土していないため時期は不明であるが、溝の位置と規模より、不入岡遺跡のSD 03（幅3m）の可能性がある。この場合、SD 03の確認できた総延長は約132mとなる。調査地の西端で検出した2号溝は、幅0.6m、長さ1.8m以上である。遺物が出土していないため、時期は不明である。

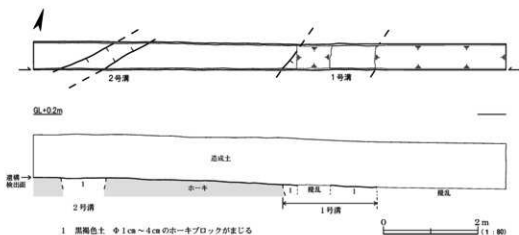
以上のことから、不入岡遺跡の南側に隣接する県道においても、部分的に遺構が遺存するため、幅1m以上、深さ0.6m以上の掘削を伴う工事の際は、事前の確認調査が必要である。

（西浦）

No.	規模 (m)	面積 (㎡)	主な遺構	主な出土遺物
	10 × 0.6	6	溝 2	なし



調査地（南から）



遺構図



上左: 1号溝検出
(南西から)

上右: 2号溝検出
(南西から)

掘方断面 (北西から)



報告書抄録

書 名	倉吉市内遺跡分布調査報告書						
副 書 名	—						
番 次	21						
シ リ ー ズ 名	倉吉市文化財調査報告書						
シ リ ー ズ 番 号	第156集						
編 著 者 名	小田芳弘・片岡啓介・田邊孝・西浦千賀						
編 集 機 関	倉吉市教育委員会						
所 在 地	〒682-8611 鳥取県倉吉市英町722番地 TEL 0858-22-4419						
発 行 年 月 日	西暦2021年3月31日						
所 収 遺 跡 名	所 在 地	コ ー ド 市町村：遺跡記号	北 緯	東 経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
石塚寺東遺跡	倉吉市石塚字山ノ下、字大鴨、 字平ノ前	31203 :	35° 23' 52"	133° 46' 53"	20181116 ~ 20190312	453	倉吉市における 各種調査事業に伴う事前 の分布調査
大鴨遺跡	倉吉市福山字大鴨、 石塚字平ノ前	31203 :	35° 23' 46"	133° 46' 49"			
国府神領遺跡 (松立寺地区)	倉吉市国府字松立寺	31203 :	35° 26' 27"	133° 47' 33"	20190218 ~ 20190226	27	
福光ヒビノ原遺跡	倉吉市福光字ヒビノ原	31203 :	35° 29' 13"	133° 47' 40"	20190228 ~ 20190312	30	
塚ノ山古墳	倉吉市志津字前田	31203 :	35° 23' 43"	133° 45' 18"	20190422 ~ 20190624	64	
大跡堂塚寺跡 (松ノ坪地区)	倉吉市松ノ坪字2丁目	31203 : 6BDO	35° 25' 49"	133° 50' 19"	20190611 ~ 20190710	30	
北の城跡	倉吉市西倉吉町字中ノ城	31203 :	35° 25' 40"	133° 48' 12"	20191030 ~ 20191224	48.5	
上神宮ノ前遺跡	倉吉市上神宮ノ前	31203 : 4YXK	35° 27' 34"	133° 47' 53"	20200109 ~ 20200116	20	
不入間遺跡群 (赤木根地区)	倉吉市不入間字赤木根	31203 : 4XFJ	35° 26' 18"	133° 47' 53"	20200226 ~ 20200309	48	
大日寺遺跡群	倉吉市板字ツツ市	31203 :	35° 25' 29"	133° 42' 38"	20200408 ~ 20200601	51	
下福田金鈴谷遺跡	倉吉市下福田字金鈴谷	31203 :	35° 25' 59"	133° 45' 22"	20200616 ~ 20200618	20	
下福田後口野遺跡	倉吉市下福田字後口野	31203 :	35° 26' 21"	133° 45' 29"	20201005 ~ 20201029	191	
不入間遺跡	倉吉市不入間地先	31203 : 6RFF	35° 26' 19"	133° 48' 4"	20201124	6	

所 収 遺 跡 名	種 類	主な時代：主な遺構	主 な 遺 物	特 記 事 項
石塚寺東遺跡	田畑・集落	奈良以降：道路 中世～近世：水田	土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、甕、輪郭口、軒瓦瓦、平瓦、白磁、肥前磁器	奈良時代以降の道路遺構から、石塚寺中に 関連すると思われる瓦や同時期の奈良瓦が 出土した。
大鴨遺跡	集落	古墳：溝1 中世：竪立柱建物1、ピット部	陶文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、 青磁、白磁、肥前磁器、備前焼、唐津焼、天目茶碗	中世の竪立柱建物を使用した。また、青磁・ 白磁といった質実陶磁器などが出土した。
国府神領遺跡 (松立寺地区)	集落・宮内	古墳：竪穴建物1 奈良・平安：柱穴2	弥生土器、土師器、須恵器、奈良瓦、丹塗土師器、土師質土器、 須恵質陶器、瓦質土器、肥前	法華寺遺跡群に関連する可能性がある確率 を確認した。
福光ヒビノ原遺跡	集落	古墳：竪穴建物1	土師器	
塚ノ山古墳	古墳	古墳：古墳1	土師器、須恵器、装飾須恵器、埴輪、形象埴輪、丹塗土師器、 土師質土器、瓦質土器	墳丘規模が全長約47m（両溝を含めた場合は 約63m）と復元でき、造営時期が6世紀 前半頃と判明した。
大跡堂塚寺跡 (松ノ坪地区)	寺院	奈良・平安：墓地区1	軒瓦瓦、丸瓦、平瓦、須恵器、丹塗土師器、黒色土器、土 師質土器、青磁、陶器、輪郭口、鉄滓、銅滓、伊賀、万 字小玉、剪像、土師	大跡堂塚寺跡の南西隅（松ノ坪地区） で、大跡堂塚寺の遺構を初めて確認した。
北の城跡	城跡	中世～近世：溝1	弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、奈良瓦、陶磁器、 瓦質土器、甕、磁石、鉄製品	北の城跡に関連する疑とされる11世紀以 降の溝を掘出した。
上神宮ノ前遺跡	散布地	なし	弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、甕、奈良瓦、瓦 質土器	
不入間遺跡群 (赤木根地区)	集落	古代：ピット1	土師器、須恵器、奈良瓦、瓦質土器、甕、青磁、陶磁器	
大日寺遺跡群	寺院	近世初期以前：石列1 中世後期～近世初期：建物基礎	弥生土器、須恵器、土師器、丹塗土師器、奈良瓦、土師質土器、 須恵質陶器、備前焼、唐津焼、京焼、天目茶碗、磁器、土 質瓦片、転用瓦、横瓦、赤瓦、鉄製品、鉄製1輪、電気通管、 瓦葺、一字一石葺	大日寺境内で、本堂を含めて3棟の建物（3 時期の本堂）と1本の石列を確認した。
下福田金鈴谷遺跡	集落	古墳：竪穴建物1	土師器	
下福田後口野遺跡	集落	不明：溝2	陶文土器、弥生土器、磁石	
不入間遺跡	宮内	不明：溝2	なし	前身国府の内郭の区画溝（S D 03）と同 一の可能性がある溝を確認した。

倉吉市内遺跡分布調査報告書21

令和3年3月31日 印刷
令和3年3月31日 発行

編集
発行 倉吉市教育委員会

印刷
製本 勝美印刷株式会社
